「十字架上の主イエス」四福音書比較

マタイ 27 章	マルコ 15 章	ルカ 23 章	ヨハネ 19 章
		32 ほかにも、二人の犯罪人が、イエスと一緒に死刑にされるために、引かれて行った。	
33 そして、ゴルゴタという所、すなわち「されこうべの場所」に着くと、	22 そして、イエスをゴルゴタという所――その意味は「されこうべの場所」――に連れて行った。	33 「されこうべ」と呼ばれている所に来ると、	いわゆる「されこうべの場所」、すなわちヘブライ語でゴルゴタという所へ向かわれた。
34 苦いものを混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはなめただけで、飲もうとされなかった。	23 没薬を混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはお受けにならなかった。		
35 彼らはイエスを十字架につけると、くじを引いてその服を分け合い、	24 それから、兵士たちはイエスを十字架につけて、その服を分け合った、だれが何を取るかをくじ引きで決めてから。	そこで人々はイエスを十字架につけた。	18 そこで、彼らはイエスを十字架につけた。
36 そこに座って見張りをしていた。			
37 イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王イエスである」と書いた罪状書きを掲げた。	25 イエスを十字架につけたのは、午前九時であった。		
	26 罪状書きには、「ユダヤ人の王」と書いてあった。		
38 折から、イエスと一緒に二人の強盗が、一人は右にもう一人は左に、十字架につけられていた。	27 また、イエスと一緒に二人の強盗を、一人は右にもう一人は左に、十字架につけた。	犯罪人も、一人は右に一人は左に、十字架につけた。	また、イエスと一緒にほかの二人をも、イエスを真ん中にして両側に、十字架につけた。
		34 〔そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。」〕人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。	
	29 そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスをののしって言った。「おやおや、神殿を打ち倒し、三日で建てる者、		
39 そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスをののしって、		35 民衆は立って見つめていた。議員たちも、あざ笑って言った。「他人を救ったのだ。もし神からのメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい。」	
40 言った。「神殿を打ち倒し、三日で建てる者、神の子なら、自分を救ってみろ。そして十字架から降りて来い。」	30 十字架から降りて自分を救ってみろ。」		
41 同じように、祭司長たちも律法学者たちや長老たちと一緒に、イエスを侮辱して言った。	31 同じように、祭司長たちも律法学者たちと一緒になって、代わる代わるイエスを侮辱して言った。「他人は救ったのに、自分は救えない。	36 兵士たちもイエスに近寄り、酸いぶどう酒を突きつけながら侮辱して、	
42 「他人は救ったのに、自分は救えない。イスラエルの王だ。今すぐ十字架から降りるがいい。そうすれば、信じてやろう。	32 メシア、イスラエルの王、今すぐ十字架から降りるがいい。それを見たら、信じてやろう。」	37 言った。「お前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ。」	
43 神に頼っているが、神の御心ならば、今すぐ救ってもらえ。『わたしは神の子だ』と言っていたのだから。」	一緒に十字架につけられた者たちも、イエスをののしった。		
44 一緒に十字架につけられた強盗たちも、同じようにイエスをののしった。		38 イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王」と書いた札も掲げてあった。	19 ピラトは罪状書きを書いて、十字架の上に掛けた。それには、「ナザレのイエス、ユダヤ人の王」と書いてあった。
			20 イエスが十字架につけられた場所は都に近かったので、多くのユダヤ人がその罪状書きを読んだ。それは、ヘブライ語、ラテン語、ギリシア語で書かれていた。
			21 ユダヤ人の祭司長たちがピラトに、「『ユダヤ人の王』と書かず、『この男は「ユダヤ人の王」と自称した』と書いてください」と言った。
			22 しかし、ピラトは、「わたしが書いたものは、書いたままにしておけ」と答えた。
		39 十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」	
		40 すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているのに。	
		41 我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」	
		42 そして、「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」と言った。	
		43 するとイエスは、「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。	
			23 兵士たちは、イエスを十字架につけてから、その服を取り、四つに分け、各自に一つずつ渡るようにした。下着も取ってみたが、それには縫い目がなく、上から下まで一枚織りであった。
			24 そこで、「これは裂かないで、だれのものになるか、くじ引きで決めよう」と話し合った。それは、「彼らはわたしの服を分け合い、わたしの衣服のことでくじを引いた」という聖書の言葉が実現するためであった。兵士たちはこのとおりにしたのである。
			25 イエスの十字架のそばには、その母と母の姉妹、クロパの妻マリアとマグダラのマリアとが立っていた。
			26 イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に、「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」と言われた。
			27 それから弟子に言われた。「見なさい。あなたの母です。」そのときから、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。
◆イエスの死	**◆イエスの死**	**◆イエスの死**	**◆イエスの死**
45 さて、昼の十二時に、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。	33 昼の十二時になると、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。	44 既に昼の十二時ごろであった。全地は暗くなり、それが三時まで続いた。	
46 三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。	34 三時にイエスは大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。		28 この後、イエスは、すべてのことが今や成し遂げられたのを知り、「渇く」と言われた。こうして、聖書の言葉が実現した。
47 そこに居合わせた人々のうちには、これを聞いて、「この人はエリヤを呼んでいる」と言う者もいた。	35 そばに居合わせた人々のうちには、これを聞いて、「そら、エリヤを呼んでいる」と言う者がいた。		
48 そのうちの一人が、すぐに走り寄り、海綿を取って酸いぶどう酒を含ませ、葦の棒に付けて、イエスに飲ませようとした。	36 ある者が走り寄り、海綿に酸いぶどう酒を含ませて葦の棒に付け、「待て、エリヤが彼を降ろしに来るかどうか、見ていよう」と言いながら、イエスに飲ませようとした。		29 そこには、酸いぶどう酒を満たした器が置いてあった。人々は、このぶどう酒をいっぱい含ませた海綿をヒソプに付け、イエスの口もとに差し出した。
49 ほかの人々は、「待て、エリヤが彼を救いに来るかどうか、見ていよう」と言った。			30 イエスは、このぶどう酒を受けると、
		45 太陽は光を失っていた。神殿の垂れ幕が真ん中から裂けた。	
50 しかし、イエスは再び大声で叫び、息を引き取られた。	37 しかし、イエスは大声を出して息を引き取られた。	46 イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」こう言って息を引き取られた。	「成し遂げられた」と言い、頭を垂れて息を引き取られた。
51 そのとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け、地震が起こり、岩が裂け、	38 すると、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂けた。		
52 墓が開いて、眠りについていた多くの聖なる者たちの体が生き返った。			
53 そして、イエスの復活の後、墓から出て来て、聖なる都に入り、多くの人々に現れた。			
54 百人隊長や一緒にイエスの見張りをしていた人たちは、地震やいろいろの出来事を見て、非常に恐れ、「本当に、この人は神の子だった」と言った。	39 百人隊長がイエスの方を向いて、そばに立っていた。そして、イエスがこのように息を引き取られたのを見て、「本当に、この人は神の子だった」と言った。	47 百人隊長はこの出来事を見て、「本当に、この人は正しい人だった」と言って、神を賛美した。	
55 またそこでは、大勢の婦人たちが遠くから見守っていた。この婦人たちは、ガリラヤからイエスに従って来て世話をしていた人々である。	40 また、婦人たちも遠くから見守っていた。その中には、マグダラのマリア、小ヤコブとヨセの母マリア、そしてサロメがいた。	48 見物に集まっていた群衆も皆、これらの出来事を見て、胸を打ちながら帰って行った。	
56 その中には、マグダラのマリア、ヤコブとヨセフの母マリア、ゼベダイの子らの母がいた。	41 この婦人たちは、イエスがガリラヤにおられたとき、イエスに従って来て世話をしていた人々である。なおそのほかにも、イエスと共にエルサレムへ上って来た婦人たちが大勢いた。	49 イエスを知っていたすべての人たちと、ガリラヤから従って来た婦人たちとは遠くに立って、これらのことを見ていた。	
			◆イエスのわき腹を槍で突く
			31 その日は準備の日で、翌日は特別の安息日であったので、ユダヤ人たちは、安息日に遺体を十字架の上に残しておかないために、足を折って取り降ろすように、ピラトに願い出た。
			32 そこで、兵士たちが来て、イエスと一緒に十字架につけられた最初の男と、もう一人の男との足を折った。
			33 イエスのところに来てみると、既に死んでおられたので、その足は折らなかった。
			34 しかし、兵士の一人が槍でイエスのわき腹を刺した。すると、すぐ血と水とが流れ出た。
			35 それを目撃した者が証ししており、その証しは真実である。その者は、あなたがたにも信じさせるために、自分が真実を語っていることを知っている。
			36 これらのことが起こったのは、「その骨は一つも砕かれない」という聖書の言葉が実現するためであった。
			37 また、聖書の別の所に、「彼らは、自分たちの突き刺した者を見る」とも書いてある。